

## 会議議事録

会議名	2023年度第2回医療事務分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科・医療事務IT科・診療情報管理科
開催日時	2024年2月15日(木) 14:00~16:00
場所	本校4階404教室
出席者 (敬称略)	<p>①企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理課長)、直井智之(東大和病院事務部長)、梅里良正(独立行政法人労働者健康安全機構顧問)、山室 靖(東京衛生アドベンチスト病院医事課課長)、町田洋治(東京都済生会中央病院事務次長代理) (計5名)</p> <p>②本校委員：川口拓也(校長)、村山由美(医療秘書科学科長)、石澤雅子(医療秘書科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科・診療情報管理科学科長)、江崎侑子(診療情報管理科教員)、榊原幸之(事務局長)、(計6名)</p> <p>オブザーバー：前田律子(副校長)</p> <p>③事務局：土方雄太</p> <p style="text-align: right;">(合計13名)</p>
欠席者	なし
配付資料	資料1：2023年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会議事録案、□資料2：2023年度第1回委員会以降の主な経過報告、資料3：2023年主な内定先(2024年1月現在)、資料4：2023年度教員研修計画・実績、資料5：2023年度後期授業アンケート結果報告、資料6①：2024年度カリキュラム案 医療秘書科、資料6②：2024年度カリキュラム案 医療事務IT科、資料6③：2024年度カリキュラム案 診療情報管理科
議長	川畑学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>川口校長より、この分野の志願者が減少し、学校経営の問題だけでなく、病院側に送り出す人間が減ることに危機感がある。高校の先生や保護者に、病院職員の未来に対する正しい認識を持ってもらうためのツールを作成したのでご覧いただきたい。</p> <p>一方、就職はほとんどの学生が決まっている。就職活動の時期が早まり、一般企業並みに4月、5月から動いている。</p> <p>本日は、忌憚ないご意見をいただきたい、との挨拶がなされた。</p> <p>2. 2023年度第1回委員会議事録の確認(資料1)</p> <p>事務局より前回議事録案について諮ったところ、訂正箇所はなく、個人情報に配慮して公表することが確認された。</p> <p>3. 2023年度第1回委員会以降の主な経過報告(資料2、3)</p> <p>榊原事務局長より資料2、3に基づき説明が行われ、確認、了承された。</p>

4. 2023 年度教員研修計画・実績（資料 4）

川畑学科長より資料 4 に基づき説明が行われ、確認、了承された。

5. 2023 年度後期授業アンケートに関する報告（資料 5）

石澤副学科長より資料 5 に基づき説明が行われ、確認、了承された。

※上記 3、4、5 に関する委員からの質問・意見等は別紙のとおり。

6. 2024 年度生カリキュラム編成について（資料 6①②③）

村山学科長、川畑学科長、江崎教員より資料 6①②③に基づき説明があり、確認、了承された、委員からの質問・意見等は別紙のとおり。

7. 今後の日程、その他

事務局より、次回の委員会の日程は 4 月以降に調整の連絡をするとの報告があり、了承された。

※ 次回のテーマ

①2024 年度学科運営の説明

②2024 年度カリキュラムと教育の実施状況報告

③2025 年度カリキュラムと教育の進め方について

以上

2023 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2023 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告（資料 2、3）

4. 2023 年度教員研修計画・実績（資料 4）

5. 2023 年度後期授業アンケートに関する報告（資料 5）

○各説明（省略）

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>*診療情報管理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療情報管理科の志願者減少は重大な問題だと思う。</li> <li>・スキルアップを考えて診療情報管理室の人間を感染管理室と医療安全管理室に配置したことがある。ベースに診療情報管理士の資格があると両者にウィン・ウィンなので、事務職の将来の形として診療情報管理士からいろいろなステップに進むことはあると思う。</li> <li>・労働者を確保しないと日本全体の活動が低下していく時代なので、病院で働くことの魅力をもっと伝えなければいけない。診療情報管理士の仕事も魅力的なものに変えていく必要がある。</li> </ul> <p>*全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の知識が全くない大学生を採用することが多くなり、いかに教育するかが課題になっている。今の年代の人はオンラインと生の授業のどちらに魅力を感じているのか。</li> <li>・職員が教えると時間が取られるので、ある程度の基礎知識は外部に教えてもらいたい。社会人向けの講義があると助かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケット自体が急激に縮小している。就職に関しては診療情報管理士を求める声が多く、出口と入口のミスマッチが顕著な 1 年だった。</li> <li>・管理室だけが管理士の働く場所ではないと思っている。</li> <li>・今は医師の間で病院経営には診療情報管理士のスキルが必要だという思考が働き、資格を取りたがっている。病院側が診療情報管理士として望む人材や役割を伝えていかないと、学校側も魅力として伝えづらいのではないかと。</li> <li>・講義中心で、課題が共有されているものはオンラインで十分にできている。</li> <li>・資格取得に関するものは、オンデマンド教材を販売している業者もある。臨床医学の分野だけでもビデオで見せる方法もあるかもしれない。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院も将来を見据えて、現場だけではなく、法人経営に携わるような人材を育てていくことが検討課題になっている。</li> <li>・医事課は避けて通れない。まず現場がベースにあって、財務・経営・人事という感じかと思う。</li> <li>・医師はカルテを書くことに時間を取られたくないのが本音で、今は診断書も増えてきているので、医師事務は重宝されると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなキャリアプランで育てていくのか。</li> <li>・専門学校業界が病院の新入職員研修を請け負う可能性もあるかもしれない。</li> <li>・高校生には医師事務という名前自体が知られていない。</li> </ul>
---	---

6. 2024 年生カリキュラム編成について (資料 6 ①②③)

◎医療秘書科

○村山学科長より、資料 6①に基づき以下の説明が行われた。

①「医師事務作業補助概論」について

- ・全ての学生が医師事務の概論を学ぶ形に変えた。

②「医療業界研究ゼミ」について

- ・2 年の選択科目で、目指している資格が全部取れている優秀な学生がさらに伸びるようというこ  
とで設けた。グループで課題を見つけ、パワポでプレゼン資料を作成する。次年度以降は学会発表も  
視野に入れた内容で進めている。

③「社会人基礎 C」について

- ・2 年生の後期で、社会に出る直前に必要な知識を学ぶ。川口校長を講師に呼んで行った「金融教育」  
は非常に興味を持って受講していた。看護科の学科長のチーム医療、多職種連携に関する講義など、  
アンケート結果もよかったので引き続き行っていきたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あと 2 時間プラスして、教える項目をマッチさせれば、病院の施設基準にある 32 時間の研修の修了証を出せるのでは。スペシャルなものは選択科目で習得するようにしてすみ分けるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人たちにプラスで、病院のほうも有益なら、調査してみたい。</li> </ul>

◎医療事務 I T 科

○川畑学科長より、資料 6②に基づき以下の説明が行われた。

- ・ I T パスポートの資格を取らせることが大きな目標である。1 年生は入学したときから I T パスポートの授業が始まっているので、期待したい。業務知識、管理知識、テクノロジーの 3 科目を 2 年生の前期まで勉強して、受験する流れになっている。

- ・ I T 科も医師事務で就職する学生が多く、合格率もよいので、引き続き指導していきたい。

- ・今年度は「調剤事務」を通年で行い、学生は楽しんでやっていた。就職状況などを見ながら続けていきたい。

- ・「病院会計」という名称で簿記を半期 15 回残してみたが、学生が意欲的に取り組んでいた。

◎診療情報管理科

○川畑学科長より、資料 6③に基づき以下の説明が行われた。

- ・3年制で学ぶカリキュラムに変えて初めての卒業生が出る。
- ・カリキュラムに関しては大きな変更はないが、引き続きがん登録や医療情報技師という難しい資格にチャレンジして、結果を出せたのはよかった。
- ・オンデマンドとオンラインの授業、自習教材が効果的だった。

(資格の取得状況について)

○江崎教員より以下の説明があった。

- ・医療情報技師は、3領域のうち1領域でも受ければ、次年度に残りを取り直すと合格になる。1つ以上の合格がある者が4名いたので、来年合格が狙える結果になった。卒業生からも相談があり、オンデマンド教材を使わせたら無事に合格した。
- ・がん登録の初級者認定試験は、合格率が落ちてしまった。あとわずか合格するレベルまで行っているため、次年度は対策を充実させて従来水準に戻したい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>*診療情報管理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報技師の資格を取ると就職は強いと思うが、どうしてもシステム系に行くことが決定してしまうのではないかと</li> <li>・将来、システム部門や医療安全の部門と連携して仕事をするときに、システムのことを知っていると仕事の幅が広がるという思考の者が多い。学生は、すぐにシステム室に行きたいというより、就職に有利になったらラッキーという感じだと思う。</li> </ul> <p>*医療事務 IT 科・診療情報管理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アプリケーションの基礎演習」の中にA Iは入っているか。これからはA Iが使えないと遅れてしまう感じがする。</li> <li>・R P Aも使えると効率が全然違う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム室はすごく狭き門になる。医事課でもよいというのであれば欲しいが、それは本人が希望するところではなさそうな気がする。</li> <li>・そのほうがよいと思う。</li> <li>・残念ながら、中身は相変わらず Word、Excel のレベルで、マイクロソフトオフィスを使うことに苦戦している状況である。</li> <li>・今はスマホで何でもできるので、タイピングにも時間がかかってしまう。</li> <li>・頑張りたいと思うが、試行錯誤している。ある程度素養のある者で、上級のものにチャレンジするクラスを作ることを考えてもよいかと思う。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬請求事務能力認定試験が終わってしまうが、今後どのように教えていくのか。</li>   <li>・施設基準に関する検定もあるが、施設基準を教えることはできないか。</li>   <li>・機能評価の視点から学生がやっておいたほうがよいことはあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院のほうで、マイルストーン的にこの資格を取るとよいというものはないか。</li>   <li>・管理士で在職していたときあと少しで取れそうな加算を上げろと言われたことがある。そういう視点が身につけばマネジメントができるので、絶対必要な人間になれると思う。</li>   <li>・教育の問題は、コメディカルや医療職関係のプログラムはあるが、事務職関係はない病院が多い。きちんと作ることが必要かと思う。</li> <li>・施設基準を満たしているかは、医事課と人事課が協力して定期的に見ている病院がほとんどだと思う。これを学生の段階からやるのは、幅が広いし、就職した病院によって関係のない基準もあるので、構造とか基礎的なことを知っておくぐらいでよいと思う。</li> <li>・私たちが病院を評価しに行くときは、施設基準にプラスしてガイドラインを重視しているが、これも学生にはちょっと早いかなという印象で聞いていた。</li> </ul>
--	---

以上